蕪村の「小（こ）」を求めて

堂守の小草ながめつ夏の月　（明和五）

小鳥来る音うれしさよ板庇（いたびさし）　（明和五）

小僧らに法問（ほふもん）させて年忘（としわすれ）　（明和五）

節季候（せきぞろ）や顔つゝましき小風呂敷　（明和五）

うぐひすのあちこちとするや小家（こいへ）がち　（明和六）

はるさめや綱が袂（たもと）に小提灯でうちん　（明和六）

春雨や小磯の小貝ぬるゝほど　（明和六）

島原の草履（ざうり）にちかき小蝶（てふ）哉　（明和六）

伏勢（ふせぜい）の錣（しころ）にとまる胡蝶（こてふ）哉　（明和六）

菜の花や和泉河内（いづみかはち）へ小商（こあきない）　（明和六）

五月雨や美豆（みず）の寝覚（ねざめ）の小家がち　（明和六）

瓜小家（うりごや）の月にやおはす隠君子（いんくんし）　（明和六）

町はづれいでや頭巾（ずきん）は小風呂敷　（明和六）

燕（なき）啼て夜蛇をうつ小家哉　（安永二）

菜の花や油乏しき小家がち　（安永二）

よき人を宿す小家やおぼろ月　（安永三）

子鼠のちゝよと啼や夜半の秋　（安永三）

鍋さげて淀の小橋を雪の人　（安永三）

むさゝびの小鳥はみ居る枯野哉　（安永四）

やごとなき御かたのかざりおろさせ給ひて

かゝるさびしき地に住給ひけるにや

小冠者出て花見る人をとがめけり　（安永五）

みじか夜や小見世明たる町はずれ　（安永五）

鹿の声小坊主に角なかりけり　（安永五）

夜を寒み小冠者臥たり北枕　（安永五）

鶯の啼くや小さき口明イて　（安永六）

麦秋や狐のゝかぬ小百姓　（安永六）

さみだれや鳥羽の小路を人の行　（安永六）

むし啼くや河内通ひの小でうちん　（安永六）

小百姓鶉を取老と成にけり　（安永六）

こがらしや鐘に小石を吹当る　（安永六）

加茂人の火を燧音や小夜衝　（安永六）

水鳥や岡の小家の飯煙　（安永六）

山に添ふて小舟漕ぎ行く若葉かな　（安永八）

昼がほやすみれの後のゆかしさよ　（安永九）

小路行けばちかく聞こゆるきぬた哉　（安永期）

山陰や誰よぶこどり引板の音　（天明二）

親法師子法師も稲を担ひゆく　（天明二）

柿崎の小寺尊しうめもどき　（天明二）

小豆売り小家の梅のつぼみがち　（天明期）

角力取つげの小櫛をかりの宿　（天明期）

さくらより桃にしたしき小家哉　（年期不詳）

葛の葉のうらみがおなる細雨哉　（年期不詳）